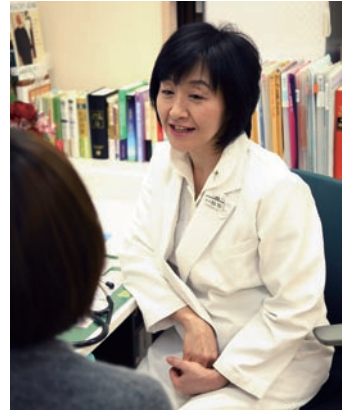


地域の医院や薬局と連携し 「統合医療」を推進

フラワーロード服部内科



病状や体質などを聞き出して、最適な治療法を見つけ出す

メタボ健診に代表されるように近年、予防医学が注目を集める中、西洋医学による医療を基盤に自然治癒力を高める医療を併用した「統合医療」が広まりつつある。2004年に開業した「フラワーロード服部内科」は周辺のクリニックや薬局などとネットワークを結び、神戸にこの新しい医療を根付かせようとしている。

患者に最適な治療法を選ぶ

1992年に米国アリゾナ大学のアンドルー・ワイル博士が提唱した「統合医療」は、西洋医学による医療に、代替医療と呼ばれる鍼灸や漢方などを取り入れた新しい医療体系だ。フラワーロード服部内科の院長、服部かおるさんはアリゾナ大学での研修を経て、2004年に生まれ故郷の神戸で開業。周辺の鍼灸院や心療内科、漢方薬局などとネットワークを結び、統合医療に取り組んでいる。

「統合医療とは、自然治癒力の向上を念頭に置き、その患者に適した治療法をさまざまな分野から選ぶという考え方です。アメリカで統合医療が生まれた背景の一つに、医療費を削減するために、費用の安い代替医療によって肥満や慢性疾患を予防す

る目的がありました」。実際、同医院には生活習慣病や禁煙の相談に訪れる人が多いという。

「一人一人の患者とじっくりと向き合いたい」と、風邪で来院した人に対しても日常生活や仕事ぶりなどについて丁寧に聞き出す。「日ごろの生活を振り返れば病因が思い当たるはず。それをしっかり把握し、予防につなげることが大事なのです」

予防医療の必要性を痛感

服部さんは、神戸大学医学部の学生時代から予防医療に関心があり、総合病院での勤務年数を重ねるにつれて、それがいかに重要かを痛感していった。「入院患者の大多数の病因は日常の心掛け一つで予防できたもの。そういうことをもっと広めなければと切実に思いましたね」

そんな折、ワイル博士が日本で初めて開いたセミナーに参加。統合医療の理念に深い感銘を受け、ついには2001年から2年間、アリゾナ大学で学ぶことに。04年、三宮で開業するに当たり、周辺の医院や薬局などに統合医療について話したところ、多くの賛同を

得た。これが現在のネットワーク体制につながっている。

女性へのアピールを第一に

最近、ワイル博士の下で学んだ仲間と統合医療の普及に向けて話し合っており、方策の一つとして、女性へのアピールを挙げる。「美容と健康はセットですし、家族の健康も食卓を預かる女性が鍵を握っています。女性誌などの取材は積極的に受け、情報を発信していこうと言っています」

服部さん自身も隔月で院内報を発行。紙面には女性読者を意識した食に関するコーナーもある。統合医療の推進も、来院者へのこまやかな心遣いも「すべての人が健康に」との思いに尽きる。「健康な人が増えればわたしたちの仕事は減りますが、世の中、警察と医者と弁護士は暇な方がいいでしょ」とほほ笑む。

【データ】

フラワーロード服部内科
事業内容：診療科目：内科、循環器科、呼吸器科、禁煙サポート外来、生活習慣病の相談、統合医療の相談など
設立：2004年5月
院長：服部かおる
所在地：神戸市中央区布引町3-1-7
神戸クリニックビル2階
電話：078-222-5566
<http://www.hattori-naika.com/>



入居するビルの最上階にはホールがあり、そこで健康セミナーを主催することも